

国語科の学習を進めるにあたって 第1学年

☆1年国語の課題

思考力や想像力を養うために、国語を適切に表現し的確に理解する語彙力を高める。

課題克服のために

- ① 言葉の意味や働きに注目し、言語感覚を磨き合う授業を皆で創りあげます。
- ② 授業時に提示された目標を意識し、系統的な学習の積み重ねを行います。

発展的な学習のために

- ① 授業で学習した言葉やわからなかった言葉、興味をもった事柄について、自ら進んで明らかにし、漢字や語句の知識を豊かにしていきます。
- ② ノートやワークシート、資料集などを活用し、自主学習、補充学習に計画的に取り組みます。

☆授業の進め方

- ① 自分の考えや友達の考えを大切に、語彙を増やし言語感覚を磨き合う授業を皆で創りましょう。
- ② ガイダンスで提示されたルールを守り、言語活動に積極的に参加しましょう。
- ③ 目的をもって学習活動に臨み、小集団活動においては互いに学び合い教え合う姿勢を大切に、協力して学習課題の解決に取り組みましょう。
- ④ 補充教材やワークシートは学習後にファイリングし、その後の学習に活用しましょう。

☆学習する上で注意してほしいこと

「話す・聞く」「書く」「読む」という3つで構成される言語活動に加えて、「感じる・考える」活動を重視し、それぞれの技能の向上を目指して授業に参加することが大切です。3つの言語活動の中で最も難しいのは「聞く（聴く）こと」です。音声をただ受け止めるのではなく「聞き取る」「聞き分ける」ことができないと、話の要点をとらえ、自らの考えを深め広げる力が身に付きません。先生や友達の発言をしっかりと聞き（聴き）、さらに「聞き取る」「聞き分ける」ことを意識して聞きましょう。国語の授業では自分の考えをしっかりともち、伝え合う活動が大切です。その際には、自分の考えを説明できる根拠も示せるようになりましょう。提出物や宿題は提出期限を守り、丁寧に課題に取り組んでください。

☆家庭学習の進め方

授業で身に付けた基礎的・基本的な言葉の知識（漢字・語句）は、家庭で復習することを常に心がけてください。漢字テストに向けては、計画的に家庭学習を進めてください。

国語の力を高めるためには日常の読書活動も重要です。好きな分野や同じ種類の本だけでなく、様々な分野や種類の本を読むことが、自分の知識や世界を広げること、読書生活の向上、学力の向上につながります。

☆テスト前の学習のしかた

定期考査では文章の読解、漢字の読み書き、語句・文法の知識、古典（古文と漢文）など様々な分野の問題が出題されます。授業の復習を必ず行い、出題範囲の文章を深く読み込み、感想や解釈、自分の考えなどを適切に表現できるようにしましょう。授業で暗唱した作品は覚え直すこと。大切な用語やキーワードも説明できるようにしておきましょう。計画的に学習に取り組み、地道な努力を継続させましょう。

☆一年間の学習内容

分野	学習内容	分野	学習内容
文学的文章	・物語「はじまりの風」 「大人になれなかった弟たちに…」 ・小説「星の花が降るころに」 「少年の日の思い出」 ・詩 「朝のリレー」 「野原はうたう」 「空の詩 三編」 「大阿蘇」「ぼくがここに」 ・随筆「二十歳になった日」	論理的文章	・説明「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」 ・意見「「不便」の価値を見つめ直す」 ・記録 「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」 ・解説「比喻で広がる言葉の世界」
書く	・情報を整理して書こう ・項目を立てて書こう ・読み手の立場に立つ ・根拠を明確にして書こう ・構成や描写を工夫して書こう	古典	・古文 「蓬莱の玉の枝-「竹取物語」から」 ・漢文「今に生きる言葉」 ・古文・音読「いろは歌」 ・古文・解説「古典の世界」
話す・聞く	・話の構成を工夫しよう ・聞き上手になろう ・進め方について考えよう ・話題や展開を捉えて話し合おう ・一年間の学びを振り返ろう	読書	・本の中の中学生 ・研究の現場によるこそ
通 年			
【漢字と語句】【書写】【文法】			

☆評価について

知識及び技能	思考力・判断力・表現力			主体的に学習に取り組む態度
	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
言葉の特徴や使い方 情報の扱い方 我が国の言語文化				
評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法
・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト（漢字の読み書き、語句、文法など） ・課題(暗唱テストなど) ・書写作品 ・音読 ・創作	・授業観察 ・ワークシート ・小テスト(聞き取り学習など) ・スピーチ、討論、話し合い活動など	・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文(意見文、感想文など) ・創作	・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文(意見文、感想文など) ・音読、朗読	・授業観察 ・ワークシート ・振り返りシート ・ノート ・提出物（ワークなど） *上記の取り組みや振り返りの記述等から総合的に判断する。

社会科の学習を進めるにあたって（1年生）

◇授業の進め方

〈地理的分野〉

1. 教科書・地図帳・資料集・白地図・地図帳を中心に進めていきます。プリントを配布します。
- ②授業中は、地図帳・資料集など様々な資料を使用して教師の発問について考えたり、考えたことをプリントの空欄に書いたり、自分の言葉で発表したりすることで、思考力を深められるようにします。

〈歴史的分野〉

1. 教科書・資料集を中心に進めていきますが、プリントを配布します。多くの資料を基に授業を進めていきます。
2. 調べ学習を行い、レポート等にまとめる学習を予定しています

◇学習する上で注意してほしいこと

- ①授業で使うものを忘れないようにしましょう。普段使うものは、次の通りです。
地理の持ち物〔教科書・地図帳・白地図・資料集・プリント用ファイル・タブレット〕
歴史の持ち物〔教科書・資料集・プリント用ファイル・タブレット〕
- ②授業の前は、前の授業で何をやったか確認をしておきましょう。
- ③先生や友だちの話を良く聞きましょう。
- ④よく考えて、授業に参加しましょう。

◇家庭学習の進め方

- ①授業があった日の授業内容を復習しましょう。
- ②基礎的・基本的な事項の確認をしましょう。
- ③ニュース番組や新聞を通して、日本や世界の出来事を知るようにしましょう。

◇テスト前の学習

〈地理的分野〉

1. 教科書・プリントを見直し、基本的事項を理解しましょう。
2. 地図を見ながら復習しましょう。
3. 自分で問題を作成したり、ワークを利用したりするなど、工夫して復習しましょう。

〈歴史的分野〉

- ①教科書・プリントを見直し、基本的事項を理解しましょう。
- ②年表を使い、できごとの整理（どこで・だれが・何をした？・その結果？）をしましょう。
- ③できごとを丸暗記するのではなく、原因や影響など関連づけて大きな流れをつかみましょう。

◇1年間の学習内容

月	前 期	月	後 期	
4	〈地理的分野〉 第1部世界と日本の地域構成	〈歴史的分野〉	〈地理的分野〉	
	第1章世界の姿 地球を眺めて 国名と位置 経度・緯度	歴史へのとびら 年代のあらわし方 時代区分	10 北アメリカ州 南アメリカ州	〈歴史的分野〉 中世の日本 武士政権の成立 ユーラシア世界と武士政治の展開
5	第2章日本の姿 日本の位置 時差 日本の領域 都道府県	古代までの日本 古代文明、日本と大陸との交流、古代国家の歩みと東アジア世界	11 オセアニア州	武士政権の成立 ユーラシア世界と武士政治の展開
	第2部世界のさまざまな地域 第1章人々の生活と環境 気候区分		12 第3部 第1章身近な地域の調査 地図の見方 第2章日本の地域的特色 山がちな日本の地形 日本の気候	
6	衣食住	1	日本の人口	近世の日本 中世ヨーロッパとイスラム世界 ルネサンスと宗教改革 織田信長・豊臣秀吉 桃山文化
	7 宗教		日本の産業	
9	第2章世界の諸地域 アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州	2	日本の地域区分	近世の日本 中世ヨーロッパとイスラム世界 ルネサンスと宗教改革 織田信長・豊臣秀吉 桃山文化
			3	

◇評価

- 1、知識・技能
 - *評価方法：定期考査、小テスト
 - ・社会的事項について知識を身につけ、理解しているか。
 - ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだすことができているか。
- 2、思考・判断・表現
 - *評価方法：定期考査、小テスト、レポート、プリント
 - ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだし、わかりやすく表現することができているか
- 3、主体的に学習に取り組む態度
 - *授業時の取り組み、レポートを含む提出物
 - ・レポートの記述
 - ・授業に取り組む姿勢や発言

数学の学習を進めるにあたって 第1学年

☆1年数学の課題は

課題は：

- ① 負の数を含む四則演算の基礎の定着。
- ② 文字式を含む四則計算の基礎の定着。
- ③ 事象を数学的に一般化して考えること。
- ④ 自分の考えを数学的な表現を用いてまとめて言語化（文章化）すること。

それを克服させるために：

- ① 中学生としての良き学習習慣を身につける。
- ② 単元ごとに小テストを実施し、達成度と課題を把握して解決していく。
- ③ タブレットを活用し、基礎の繰り返し練習を行う。
- ④ 多様な考え方を友達同士で共有する機会を増やす。

発展的な学習のために：

- ① 学んだことをもとにして、身近な問題や数学的な問題の解決方法について考える。
- ② 多様な考え方を追求することにより、数学に対する見方や考え方を深める。

☆授業の進め方

- ① 授業の課題を把握し、見通しをたてる。
- ② 自分の考えをもち、問題を解決する。
- ③ 友達の考えを知って共通点や違いを発見したり、話し合ったりする。
- ④ 授業を振り返って、分かったことや疑問に思ったことをまとめ、自己評価をする。
- ⑤ 新たな課題を見つけ、さらに考えを深める。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。
- ⑦ 単元テストや小テストで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な持ち物（教科書・ノート・問題集・筆記用具）を忘れないよう、毎回必ず準備する。学習内容によって、三角定規・コンパスが必要な場合もあるので、予め用意しておく。
- ② 授業中は先生からの指示をよく聞き、「話を聞く時間」、「自分で考える時間」、「友達と考えを共有する時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ③ 黒板やモニターの内容は、色分けなどをしてノートやプリントに書く。また、気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどを書き込み、自分なりに工夫してまとめるとよい。
- ④ 課題に対して積極的に考え、見通しをたてて自分の考えをもつ。友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。
- ⑤ 疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑥ 宿題や提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆家庭学習の進め方

- ① 学習した内容は、教科書やノートを使って、その日のうちに復習をする。
- ② タブレットや問題集を利用して問題演習をする。
- ③ 問題を解いたら必ず答え合わせを行い、わからなかったことや、間違えたところを確認し、自分の課題を確認する。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、ノートや教科書をよく見直す。
- ② 章末問題に取り組む。
- ③ 問題集の問題を解く。すべて解き終えたら、一度間違えた問題や分からなかった問題などをもう一度解き直す。
- ④ ノートや問題集のまとめをして提出の準備をする。

☆1年間の学習内容

前 期	後 期
第0章 算数から数学へ 1. 整数の性質	第4章 比例と反比例 1. 関数と比例・反比例
第1章 正負の数 1. 正負の数 2. 加法と減法 3. 乗法と除法 4. 正負の数の利用	2. 比例の性質と調べ方 3. 反比例の性質と調べ方 4. 比例と反比例の利用
第2章 文字と式 1. 文字を使った式 2. 文字式の計算 3. 文字式の利用	第5章 平面図形 1. 図形の移動 2. 基本の作図 3. おうぎ形
第3章 方程式 1. 方程式とその解き方 2. 1次方程式の利用	第6章 空間図形 1. いろいろな立体 2. 立体の見方と調べ方 3. 立体の体積と表面積
	第7章 データの分析と活用 1. データの整理と分析 2. データの活用 3. ことからの起こりやすさ
	○1年間のまとめ 問題演習

☆評価について

1 知識及び技能

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、プリント 等

- ・基礎的な概念や原理・法則を理解している
- ・学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したりしている。
- ・数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、プリント、話し合い活動、課題、発表 等

- ・数学を活用して事象を論理的に考察することができる。
- ・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。
- ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- ・数学的な知識を活用して、さらに探究した内容が表現されている。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業や課題への取り組み、プリント、話し合い活動、学びの足跡、発表 等

- ・授業に取り組む姿勢や積極的な発言
- ・学びの足跡やプリントの記述

以上を総合的にまとめ評価する。

理科の学習を進めるにあたって 第1学年

★1年理科の課題

- 小学生の段階から理科に苦手意識をもっている生徒や、学習した内容を時間とともに忘れてしまう課題がある。
- 自分の考えを論理的に考え、言語化（文章化）することが苦手な面がある。

それを克服するために：

- 授業を重視し、話をよく聞き、他者とともに学ぶ姿勢を身に着けることが重要である。身近な現象と結びつけて学習することで、理科への興味・関心を高め、苦手意識をやわらげる。
- 考察の書き方を授業内で伝え、実験・観察後、結果と考察をレポートにして提出する。レポートは考察が最も重要視される。他者のよいレポートを参考にすることも大切である。

★授業の進め方

- その時間の目的を理解する。
- 課題に対して予想を立て、観察、実験を行う。
- 結果から見出したことを整理し、発表する力をつける。
- 自然科学の考え方を身につける。
- プリント等を使って重要な用語や考え方を確認し、学習内容をより深く定着させる。
- 個人やグループワークで課題に取り組み、基礎・基本を確認する。

★学習する上で注意してほしいこと

- 授業に必要な物は忘れない。
- 授業中、先生の説明や友達の発言をしっかりと聞く。友達の発言の中にも考え方のヒントが示されているので、自分の考え方の参考にする。
- ノートやワークシートをきちんととる。板書事項はもちろんのこと、自分なりに工夫する。プリントはノートに貼る。先生の言っていたことのメモをとる。
- 実験、観察は積極的に行う。自分でやってみて自分の目で確かめ記憶にとどめることが必要。他の班員に任せただけにはしない。
- 宿題、提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。
- 授業で分からなかったことは、授業後や休み時間に先生に聞く。決して分からないことをそのままにしないこと。

★家庭学習の進め方

- ①ワークの活用、授業で使用したプリントの確認。Qubena の活用。
- ②定期テストや小テストに向けて、計画的に自主学習を行う。

★テスト前の学習

- 教科書、ノート、ワーク、プリントをよく見直す。
- ワークの問題を解く。わからないところはそのままにせず、解説を読んだり、質問したりする。
- 観察、実験のまとめを見直す。結果だけでなく、観察、実験の注意なども確認をすること。

★1年間の学習内容

4月	物理化学分野	生物地学分野
5月	＜化学分野＞ 身のまわりの物質	＜生物分野＞ いろいろな生物とその共通点
6月	1. 身のまわりの物質とその性質	1. 生物の観察と分類のしかた
7月	2. 気体の性質	2. 植物の分類
8月	3. 水溶液の性質	3. 動物の分類
9月	4. 物質の姿と状態変化	
10月	＜物理分野＞ 身のまわりの現象	＜地学分野＞ 大地の変化
11月	1. 光の世界	1. 火をふく大地
12月	2. 音の世界	2. 動き続ける大地
1月	3. 力の世界	3. 地層から読みとる大地の変化
2月		
3月		

★評価

1. 知識及び技能

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント、実技(スケッチ、実験操作)

- 基本的な概念、法則を理解している
- 学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- 実験、観察の様々なデータと、理解した法則と内容が一致することができる。
- 観察、実験で使う器具の基本操作が身についている。

2. 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期テスト、小テスト、レポート(考察)、話し合い活動

- 観察、実験の結果を分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 観察、実験の結果をもとに、論理的に考え、考察として表現することができる。
- 事象をもとに、論理的に思考し、課題解決することができる。

★以上のことがらは個人の内面での理解はもとより、論述や発表、話し合いで意見を共有できるものとする。

3. 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業への取り組み等

- 授業態度や発言や記録、観察、実験を安全かつ正しい方法を身につけ、かつ実践することができる。
- 班活動で仲間とともに協働的に学ぶことができる。

★以上を総合的にまとめ評価する。

音楽の学習を進めるにあたって 第1学年

☆課題

興味・関心をもち様々な活動に楽しみながら取り組む姿勢が多く見られます。自分の考えを伝え、表現力を高めることに遠慮がある生徒が多く、グループ活動や他者と協働して創り上げる進め方に課題があります。

☆課題を克服するために

- ① ピアノ等で歌唱練習を行い、歌唱表現のアドバイスをします。
- ② 鑑賞時にグループで感受したことを互いに発表しあう時間をとり、多角的な視点や言葉の表現を知る機会を設けます。

☆発展的な学習のために

- ・歌詞の内容や作曲者の意図をくみ取り、自分たちならどのように表現するのか考え、豊かな表現活動につなげられるようにします。
- ・演奏を録音し、客観的に聴く時間を設けます。聴くことにより、課題に気付く力や鑑賞能力の向上につなげます。

☆授業の進め方

- ① 持ち物は教科書・合唱曲集・筆記用具・タブレット、ファイルです。
- ② 歌唱では、発声練習・パート練習・合唱練習を状況に応じて行います。
- ③ 鑑賞では、プリントを使用し、作曲家・楽器・音楽構成などについて学習をします。
- ④ その他、授業時数に応じて創作、楽器実技などを学習します。
- ⑤ 単元ごとに実技テストを行います。課題は授業内で練習します。

☆学習する上で注意してほしいこと

どの題材も一生懸命に取り組み、授業を作っているひとりとしての意識を強く持ちましょう。

- ① 「話を聞く時間」と「自分を表現する時間」の区別をつけましょう。
- ② 実技では、どの形態の練習も積極的に取り組みましょう。
- ③ プリントの内容は、工夫して丁寧に完成させましょう。

☆家庭学習の進め方

家庭では、様々なジャンルの音楽にふれ、音に対する感性を磨いてください。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、教科書やプリントをよく見直しましょう。
- ② 実技テストは、題材によって一人で行ったり、複数で行ったりします。授業での練習＝実技テストという心構えで臨んでください。

☆1年間の学習内容

月	単元	月	単元
4月	オリエンテーション 「歌唱：校歌」	10月	「器楽：箏」
5月	「歌唱：二部合唱」	11月	「鑑賞：六段の調べ」 「創作：VOCALOID」
6月	「鑑賞：春」 合唱コンクール課題曲	12月	「鑑賞：魔王」
7月	合唱コンクール自由曲 「指揮」	1月	「鑑賞：日本の民謡」
9月	「歌唱：混声三部合唱」	2月	「日本の歌」
		3月	「混声三部合唱」

- 実際には、歌唱・鑑賞・理論が重複して授業は進行します。
- 状況によって実施する順番が変更される可能性があります。

☆評価について

①知識・技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや音楽の多様性を理解している。
創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて表現している。

- ・評価内容…歌唱時の正しい姿勢、発声、音程、器楽の正しい奏法、音楽記号の理解と表現する技能、作曲家について、楽曲、演奏楽器、歴史、楽曲がもつ音楽性の理解
- ・評価方法…取組過程・実技テスト・定期考査・プリントの内容

②思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。どのように表現するかについて思いや意図をもち表現をしたり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。

- ・評価内容…楽曲がもつ音楽性の理解、歌詞への理解、音楽記号の理解とそれに伴う表現力、どのように表現するか思いや意図を持っている
- ・評価方法…取組過程・実技テスト・定期考査・プリントの内容

③主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

- ・評価内容…授業中の態度や活動の主体性
- ・評価方法…取組過程・提出物・プリントの内容

美術の学習を進めるにあたって（1年生）

◇ 授業の進め方

- ①持ち物は、筆記用具、鉛筆(描画用)、教科書、タブレット、手さげ、アクリルガッシュ、ペーパーパレット、スケッチブック、ファイルです。必要に応じて小型の鉛筆削り、油性ペン、色鉛筆 等を使うこともあります。手さげ、アクリルガッシュ、ペーパーパレット、スケッチブック、ファイルは教材費で購入します。
- ②作品制作では、前期に基礎を学び、後期にその成果を生かして制作に取り組みます。関連作品の鑑賞などを通して題材への理解を深め、手順と方法の説明に基づいて作業を進めます。質の高い作品を目指す意欲と、計画的に進めて期限内に完成させる姿勢を大切にします。
- ③鑑賞ではワークシートを使い、有名な作品や作者、技法や美術のジャンルなどについて学習します。単元の中で、他の人が作った作品を鑑賞することもあります。また、そこから感じ取ったことを文章等で表現をしたり、話し合い活動によって考えを深めていきます。

◇ 学習する上で注意して欲しいこと

- ① 忘れ物に気を付けてください。
- ② 期限内に満足のいく形で作品を完成させられるように、集中して制作活動に取り組みましょう。
- ③ 提出の期限は守ってください。提出物には記名を忘れないようにしましょう。
- ④ 美術室の備品は全校生徒が使うものです。大切に扱い、次の人が気持ちよく使えるように、片付けまでしっかりと行いましょう。
- ⑤ 1時間1時間の授業を大切にするために、チャイムと同時に始められるようにしましょう。
- ⑥ 課題内容によって衣服に汚れが付く恐れがあります。ジャージ等を上に着て作業を行いましょう。

◇ 家庭学習の進め方

- ① 授業内で完成できなかった場合など、一部の課題を宿題とすることや、放課後に制作をしてもらうことがあります。計画的に制作を進め、提出期限を守りましょう。
- ② 課題（テーマ）が発表されたら、身近にある雑誌やカタログ、写真や実物などを意識して見ておくと、作業をスムーズに進めることができます。
- ③ 好きなもの、変わったもの、個性的なもの、綺麗なものなど、普段から色々なものに興味を持ち、そこから様々なことを感じ取れるようにしておくと良いでしょう。
- ④ 美術作品は本物に触れることで良い影響を受けることができます。機会があれば展覧会などへ、行ってみるのも良いと思います。

◇ テスト前の学習

- ① テストは、教科書、プリントや授業で行った内容等を中心に問題が出題されます。プリントや教科書等に目を通し、授業の内容をよく思い出しておきましょう。
- ② 配布されたプリント類は全て、ファイリングしておきましょう。

◇ 1年間の学習内容（1年生）

前 期		後 期	
		月	
4月	ガイダンス・自己紹介 鉛筆で陰影をつける練習をする	9月 ～ 11月	・前期期末考査(美術 30分) ・絵文字を制作をする ・色彩原理を学ぶ
5月	・レタリングを学ぶ		
6月	・絵の具の使い方を学ぶ ・モダンテクニックを学ぶ	12月 ～ 2月	彫塑 ・テーマに基づいたものを 粘土で作る ・後期期末考査(美術 30分)
7月	・絵文字を制作をする		
8月	(夏休みの宿題) 美術館に行って作品を鑑賞する	3月	・粘土の作品完成、鑑賞会

◇ 評価

①「知識・技能」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしているか、表現方法を創意工夫し、創造的にあらわしているかを評価します。美術的知識に基づいた言葉を覚えるだけでなく、表現や鑑賞において造形的な視点に基づく判断がなされているかや、創造的な技能が身に付いているかも見ます。

②「思考・判断・表現」（評価資料：作品等提出物・ワークシート・小レポート・定期考査 等）

造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方が深められているかを評価します。最終的なアイデアのみでなく、それを生み出すまでの過程や、鑑賞活動においてどのような見方、感じ方をしたかも見ます。

③「主体的に学習に取り組む態度」

(評価資料：授業に取り組む姿勢・期限内提出・忘れ物の有無・ふりかえりシート提出 等)

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしているかを評価します。学習過程で習得する「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、自らの課題に結びつけ、主体的に学習や制作活動の中で発展させていこうとする意欲を見ます。

保健体育の学習を進めるにあたって 全学年

☆保健体育の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

課題は：

- ①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動できること。
- ②自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫できること。
- ③必要な運動の技能を高めることや、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けること。
- ④生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けること。

それを克服するために：

- ①授業の約束を守りましょう。
- ②「自分から」取り組みましょう
- ③自己評価（自分自身で）や相互評価（友達と）を大切にしましょう。

発展的な学習のために：

- ①教科内の科目の系統性や関連性
 - ・保健体育は3年間を通じて学びます。見通しをもって取り組むようにしてください。
 - ・単元（種目）ごとに、授業計画について説明します。
- ②学習への心構え
 - ・「保健」と「体育」の関連も重要です。
 - ・競技種目を行うことや勝敗を競うことだけが運動ではありません。運動に対し苦手意識をもっていたり運動は嫌いと思っている人も、新たな気持ちで授業に臨んでください。
 - ・与えられた運動をただ行うだけでなく、自分や仲間の課題がどこにあるのか、課題の解決のためには何をどのよう

にすればよいのかなど、積極的に課題の発見や解決に取り組んでください。

- ・体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲をもって「運動を実践する力」です。普段の生活の中

でも運動の実践に心がけてください。

- ・保健にとっての「学力」とは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することなど「考える力」です。他者と切磋琢磨しつつ変化に対応する能力や資質を養っていけるよう心がけてください。

☆授業の進め方

- ① 実技の授業は指定の体操着で行います。
 - 活動場所は単元によって校庭、体育館1階、体育館2階で行います。
 - 準備運動やトレーニングを行った後、その日の活動に入ります。
 - 毎時間、自己の目標達成に向け積極的に授業に取り組みましょう。
- ② 保健の授業は保健の教科書（3年間同じもの）を使用します。
- ③ 単元ごとに達成度を確認する実技テストを行うことがあります。

☆学習する上で注意すること

- ①健康管理は、各自でしっかりと行い、欠席、見学がないようにしましょう。体調が悪く授業を見学する場合は何かの用紙に家の人に理由を記入してもらい、印をもらって先生に提出しましょう。
- ②休み時間のうちに移動をし、開始時間に遅れることや、必要な持ち物を忘れないようにしましょう。
- ③授業中に怪我をしたり怪我をさせたりすることがないように、集中して取り組み、お互いの安全に配慮しましょう。

- ④技能は常に自己の運動能力を考え判断し、それぞれの技能を高めるように取り組みましょう。
- ⑤実技テストがあった場合は必ず受けましょう。
- ⑥レポートや学習カードの課題は丁寧に仕上げ、期限を守り確実に提出しましょう。
- ⑦授業の目的を把握し、全力で取り組みましょう。

☆テスト前の学習

- ①実技テストは授業で繰り返し練習した基本的な内容です。授業内でより良く習得できるようにしましょう。
- ②知識を問うテストは保健や実技で学習したことが理解できているか、確認します。特に体育実技は体の動きや運動の行い方を言葉でも説明出来るようにしておくことが大切です。体育実技の教科書を熟読し、技能の名称やルールは正式な名称で正しく覚えましょう。（実技の教科書も3年間使用します）
- ③日頃から分からないことがあれば積極的に質問してください。

☆1年間の学習内容の例（令和8年度案）

前 期				後 期			
月	1年生	2年生	3年生	月	1年生	2年生	3年生
4	体づくり 体育理論	体づくり 陸上競技Ⅱ	体づくり 陸上競技Ⅲ ダンス	10 11	球技Ⅰ ネット型	球技Ⅱ 武道Ⅱ	武道Ⅲ 球技Ⅲ (ゴール型)
5	新体力測定 陸上競技Ⅰ	新体力測定 器械運動Ⅱ	新体力測定 球技Ⅲ (ネット型)	12	武道Ⅰ	球技Ⅱ (ネット型)	球技Ⅲ (ハーフホールの型)
6	ダンスⅠ	ダンスⅡ	水泳Ⅲ	1	球技Ⅰ ベースボール型	球技Ⅱ (ゴール型)	球技Ⅲ (ゴール型)
7	水泳Ⅰ	水泳Ⅱ	器械体操Ⅲ	2	球技Ⅰ ゴール型	保健	球技Ⅲ (ネット型)
9	器械体操Ⅰ	水泳Ⅱ 球技Ⅰ (ベースボール型)	水泳Ⅲ 器械体操Ⅲ	3 通年	陸上競技Ⅰ 保健		保健

※本年度の「水泳」は、状況判断し、実施を検討します。

※単元については、状況により、実施時期が前後することがあります。

※保健は、3年間で48単位時間程度担当しています。

☆評価の観点

〔体育分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を実践するための理論について理解するとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

家庭科分野の学習を進めるにあたって 第 1 学年

○授業の進め方

「食生活」を中心に学習をします。

【教室での授業】

☆教科書、プリント、ワーク、ノートにそって進めます。

☆1 時間の授業には、「先生の説明を聞く時間」「自分の考えをまとめたり書く時間」「班やクラスで意見交換をする時間」があります。

【被服室・調理室を使う授業】

☆道具の使い方・基礎技法を確認します。

☆班員と協力して実習します。

☆全員が少しずつ分担して片付けます。

☆振り返りシートにその日の実習についてまとめます。

○学習するうえで注意してほしいこと

【1】持ち物

☆教室……①教科書、②ワーク（クラス・番号・名前を明記）③プリント、④筆記用具（色ペン 3 色あるいは色鉛筆 32 色を含む）

☆調理室……①エプロン、②三角巾、③ミニタオル 1 枚（あるいはハンカチ 2 枚）④髪を束ねるもの（あるいは朝から束ねてくる）⑤体調が万全であること、⑥その他指示したもの マスク

☆被服室……①筆記用具、②小学校で使っていた裁縫セット、③その他指示したもの

※材料は被服室に置いておきます。

【2】実習は、慎重かつ真剣に取り組みましょう。

【3】実習中は、自分や友人を傷つけないように安全に留意しましょう。また、プリント、ワークは予告なく回収しても自信を持って提出できるようにまとめておきましょう。

【4】実習中は、班で協力し友達の良いところを学びましょう。

【5】想像力をはたらかせて、授業の内容と生活を関連付けましょう。

【6】立ち歩きは禁止です。用があるときは手をあげましょう。

【7】黒板の内容と、先生の話の中で大切と思ったことは書き留めましょう。
（ヒント：何度も説明したこと・大きな声で説明したこと・色チョークを使ったとき など）

【8】提出メ切を守れるように最大の努力をしましょう。

○家庭学習の進め方

☆学習内容に合わせて家庭学習を指示します。期日までに仕上げましょう。

☆生活に関わる事物に興味を持ちましょう。（ニュース、新聞、書籍類、パンフレット、パッケージ など）

☆10 分でよいので、その日のうちに復習をしましょう。（勉強の目安時間はテスト前を除く。）

☆家庭でお手伝いをしましょう。

○テスト前の学習

☆教科書、ワーク、ノートそしてプリントを見直す。

☆実習したことを思い出す。

※テストは期末考査のみ年間 2 回です。毎回 50 点満点です。

※テスト範囲は、小学校の家庭科テストより広くなります。少しずつコツコツと復習しましょう。

○1 年間の学習内容

前期		後期	
月	B 衣食住の生活	月	B 衣食住の生活
4	家庭分野のガイダンス（A 家族・家庭生活） 自分の成長と家族・家庭生活	10	4 日常食の調理 5 地域の食文化
5	食生活 1 食事の役割と食習慣	11	
6	2 中学生に必要な栄養を満たす食事	12	
7	3 さまざまな食品とその選択	1	
8		2	
9	3 さまざまな食品とその選択	3	調理実習

※状況により変更する場合があります。

○評価

家庭分野では下記の 3 観点から総合的に判断します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族・家庭・衣食住・消費・環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決方法を考え、実践・評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。	家族の一員として、生活をより良くしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
方法	☆定期考査 ☆実技テスト ☆ワーク、ノート、プリントなど	☆定期考査 ☆作品 ☆ワーク、ノート、プリントなど	☆作品 ☆ワーク、ノート、プリントなど ☆授業の取り組み

なお、技術分野と合わせて最終評価としますが、その割合は 5:5 です。

技術分野の学習を進めるにあたって 第1学年

☆授業の進め方

技術の学習内容は「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4分野になっています。

第1学年では、前期・後期を通して「材料と加工に関する技術」を学習します。本分野では、主に木材を利用し、自らの生活に役立つ作品制作を行います。

木材の組織を学習した後、安全で適切な製作ができるよう、工具などの基本的な使用方法を学習していきます。

☆学習する上で注意してほしいこと

【技術室の使用に関して】

①大変危険な機械がたくさんあります。絶対に勝手に機械に触れないでください。

特に技術室木材加工部屋の後部にある、丸鋸盤や自動かんな盤は大変危険なので、鉄柵の後ろには入らないでください。

②工具を安全に取り扱ってください。のこぎりやキリで人を傷つけることがないように、細心の注意をはらってください。

③整理・整頓を心掛けてください。釘が1本落ちているだけでも危険です。

④作業の際は、木くずや着色料が付着する場合があります。汚れてもいように作業時は、ジャージを着用するようにしてください。

・絶対に技術室から物を持ち出さないでください。のこぎりやその他工具だけではなく、紙ヤスリや釘なども持ち出すことは厳禁です。

☆家庭学習の進め方

技術分野では、家庭学習は特に必要ありません。そのかわりに、その日に学習した授業内容をよく復習してください。

☆1年間の学習内容

前期		後期	
月	A. 材料と加工に関する技術 (1) 生活や産業の中で利用されている技術 (2) 材料と加工の技術を利用した基本的な作業の学習 ※図面の読み取り方、安全な工具の使用方法についての基本を学ぶ。 ・けがき ・部品加工 ・組立て ・仕上げ	月	(3) 材料と加工に関する技術を利用した生活に役立つ製作品の設計・製作 ・けがき ・部品加工 ・組立て ・仕上げ D. 情報に関する技術 情報モラル
4		10	
5		11	
6		12	
7		1	
8		2	
9		3	

※ 状況によって変更が生じることがある。

☆評価

技術分野の学習の評価は、下記3観点から行います。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活で利用されている、材料と加工に関する技術について関心をもち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のための知識・技能を身に着けている。	材料と加工に関する技術を学ぶ中から、問題を見いだして課題を設定し、その課題を解決できるような力を身に着けている。	材料と加工に関する技術を学ぶ中から、自分の生活に関わる技術の課題を解決するために、主体的に取り組み、改善、実践しようとしている。
方法	ノート、作業、テスト	ノート、作業、テスト	ノート、作業、テスト

作業

教科としての評価は、技術分野(50%)＋家庭分野(50%)＝「技術・家庭」(100%)として成績を出します。もし、技術分野か家庭分野のどちらかが得意でよく頑張ったとしても、もう一方で手を抜いてしまえば良い成績はつきませんので注意して下さい。

英語の学習を進めるにあたって

第1学年

☆1年 英語の到達目標

1. はっきりと話されれば日常的な話題について必要な情報を聞き取ることができる。
2. 日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。
3. 関心のある事柄について簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。
4. 関心のある事柄や体験したことなどについて簡単な語句や文を用いて話すことができる。
5. 関心のある事柄や体験したことなどについて簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。

☆ 授業の進め方

- ① Unit 全体の目標や各 Part の目標（その日の授業の目標）を理解する。
- ② 授業内で達成すべき目標に向かって、さまざまな活動に取り組む。
活動は「聞くこと・読むこと・話すこと（即興で行う）・話すこと（準備をして行う）・書くこと」があります。一人で取り組んだり、友だちと取り組んだりする場面があります。
- ③ ワークシートや問題集などに取り組み、活動を通して学習した内容の確認をし、理解を深める。
- ④ 学習した内容を活用し、定着を図る。
- ⑤ 定期考査や小テストなどで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆ 学習する上で注意してほしいこと

- ⑦ 授業で必要な持ち物を忘れないよう、毎回必ず準備する。
【持ち物】：教科書、ノート、ファイル（プリントなどの保管用）、辞書、筆記用具
- ⑧ 授業中は先生の話をよく聞き、「話を聞く時間」、「活動の時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ⑨ 気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどはメモをとり、以後の学習に生かす。疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑩ 宿題や提出物は自分のためになるように取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆ 家庭学習の進め方

- ④ 学習した内容について教科書やノート、問題集などを使い、その日のうちに復習をする。分からないことや疑問に思ったことは調べたり、先生に聞いたりして理解を深める。
- ⑤ 学習した New Words（新しく習った単語）、Key Sentence（新しく学習した重要文）、教科書本文を声に出して読めるように練習する。教科書本文は、英語を見ずに言えるようになることを目標にする。
- ⑥ ノート学習への取り組み
（取り組み方については、授業内でプリントを配って説明します。）
- ⑦ 授業で出された課題に取り組む。

☆ テスト前の学習

- ⑤ 教科書本文、Key Sentence の内容を理解する。声に出して読める、書けるようにする。
- ⑥ ノートや教科書を見直し、授業で行ったことをふり返る。学習した内容を理解することを目標とする。最初から書き込まず、ノートなどを使って、くり返し学習する。
- ⑦ 授業で取り組んだ発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト、ライティング（書くこと）活動をふり返る。これらの内容について、声に出して言える、書けるようにする。

☆ 1年間の学習内容

	学習する内容		学習する内容
4月	Unit 0 Sound and letters 0~4	11月	Unit 7
5月	Unit 1 Unit 2	12月	Unit 8 Stage Activity 2 “My Hero”
6月	Unit 3	1月	Unit 9
7月	Unit 4 Stage Activity 1 “All about Me” Poster	2月	Unit 10
9月	Unit 5 Real Life English 1	3月	Stage Activity 3 “My Favorite Event This Year” Let’s Read “Gon the Fox”
10月	Unit 6		

☆ 評価について

- 1 知識及び技能
☆評価方法：定期考査、小テスト、ノート、プリント、発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト
・英語の特徴やきまりを理解している。
・日常的な話題や社会的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを、語句や文を用いて話したり、書いたりして表現したり、伝えあったりできる。
- 2 思考力・判断力・表現力
☆評価方法：定期考査、小テスト、ノート、プリント、発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト
・日常的な話題や社会的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを、語句や文を用いて話したり、書いたりして表現したり、伝えあったりできる。
・日常的な話題や社会的な話題について話されたり、書かれたりする文章などを聞いたり、読んだりして必要な情報や概要、要点などをとらえることができる。
- 3 主体的に学習に取り組む態度
☆評価方法：授業や課題への取り組み、ノート、プリント、発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト
・授業に取り組む姿勢や積極的な発言
・発表活動、ALT の先生とのインタビューテストに取り組む姿勢
・自己評価

以上を総合的にまとめ評価する